

[短 報]

## 静岡県沼津市新中川で採集されたタメトモハゼ

北原佳郎<sup>1)</sup>・加藤健一<sup>2)</sup>・岡部 剛<sup>3)</sup>

### Record of the *Ophieleotris* sp. A from the Shin-nakagawa River, Numazu City, Shizuoka Prefecture, Japan

Yoshiro KITAHARA<sup>1)</sup>, Ken-ich KATO<sup>2)</sup> and Tsuyoshi OKABE<sup>3)</sup>

#### はじめに

タメトモハゼ *Ophieleotris* sp. A は、ハゼ亜目カワアナゴ科タメトモハゼ属の魚類である(瀬能ほか, 2004)。和名は、日本初確認の採集地が沖縄島運天港(鎮西八郎為朝(源為朝)が上陸したとされる)に近かったことにちなみ提唱された(黒岩, 1927)。また、学名は、明仁親王・目黒(1974)によって *Ophieleotris apros* (Bleeker) が提唱されたものの、種が未決定な別種が確実に存在するなど分類学的な問題から、現在では種小名は未決定のままとどめられている(瀬能ほか, 2004)。

日本では種子島, 屋久島, 琉球列島, 国外では台湾, アンダマン諸島, インド・西太平洋に分布し(明仁ほか, 2000; 岩田, 2001; 瀬能ほか, 2004), 日本の分布域は、世界の分布北限にあたる(米沢, 2003)。本種は西表島を除き、沖縄県・鹿児島県ではもともと生息個体数が少ないうえ、各地において河川改修や生息地の埋め立てなどにより激減しており(鈴木, 2003), 環境省 RL では絶滅危惧 I B 類, 沖縄県 RDB では絶滅危惧 I B 類, 鹿児島県 RDB では絶滅危惧 I 類に選定されている(米沢, 2003; 立原, 2005; 環境省自然環境局野生生物課, 2007)。

今回、筆者らは、静岡県沼津土木事務所による

「平成 22 年度 [第 22-K3007-01 号] 二級河川新中川河川改良に伴う河川水辺環境調査委託(魚介類調査)」の一環で実施した魚類調査の際、静岡県沼津市の新中川において本種を採集した(図 1)。

鹿児島県以北での分布記録はなく、今回の記録が分布の北限および東限にあたるため、ここに報告する。

#### 採集と方法

採集は 2010 年 9 月 7 日の干潮時(内浦: 干潮 10:34, 潮位 87cm(観測基準面表示))に、二級河川新中川(延長 3.2km: 静岡県交通基盤部河川砂防管理課, 2010)の新中川橋(河口から約 200m 上流)の下流右岸にある放水路暗渠内の溝(幅 5m × 長さ 1.5m, 深さ 0.5m)で行った。採集にはタモ網(口径 30cm, 目合 1mm)を使用した。

採集場所は感潮域に位置するものの、新中川河口部には砂礫が堆積して流幅が狭くなっているため、汽水域はほとんど発達していない。放水路には増水時以外に河川からの水は流入しないため、満潮時には河口部からの水が遡上するが、それ以外の時には河口との連続性が分断されている(図 2)。溝内には砂が堆積し、満潮時に漂流してきたと思われるゴミが若干みられる程度で、植生等は存在しなかつ

<sup>1)</sup> 〒422-8041 静岡県静岡市駿河区中田2-3-26-502  
2-3-26-502, Nakada, Suruga-ku, Shizuoka, Shizuoka, 422-8041, Japan

<sup>2)</sup> 〒422-8034 静岡県静岡市駿河区高松 2-15-15-202  
2-15-15-202, Takamatsu, Suruga-ku, Shizuoka, Shizuoka, 422-8034, Japan

<sup>3)</sup> 株式会社フジヤマ, 〒435-0013 静岡県浜松市東区天竜川町 303-6  
Fujiyama CO. LTD, 303-6, Tenryugawa-cho, Higashi-ku, Hamamatsu, Shizuoka, 435-0013, Japan

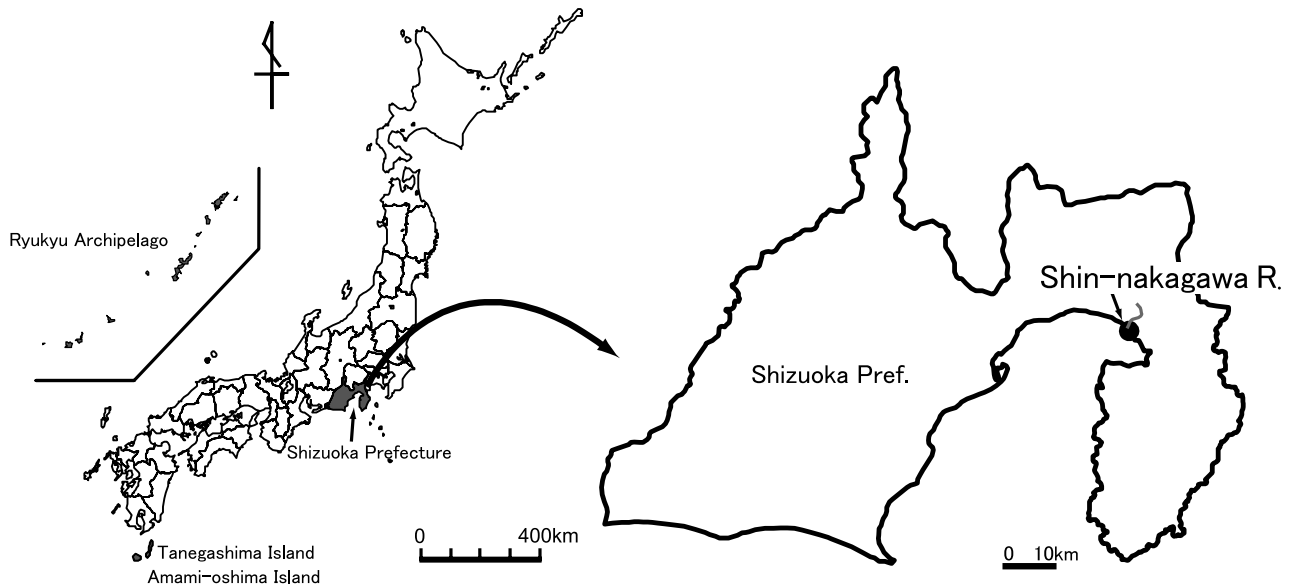


図1 日本における分布域および採集場所。地図中の網掛けは分布域、●：採集場所。

た。なお、採集時の水温は 26.0℃，塩分濃度は 0% であった。

採集によって得られた標本は 10%ホルマリン液で固定した後，70%エタノールに移し，室内で頭部感覚器官の観察，各部の計測と計数を行った。頭部感覚器官の観察は，明仁親王（1985）および明仁ほか（2000）に従い，サイアニンブルーによる一時染色を施して行った。計測と計数は中坊編（2000）に従い，計測にはノギスを用いた。また，標本は静岡県自然史博物館魚類標本（SPMN - h）として登録・保管した。

調査標本の記載は，標本番号，個体数，全長（TL），標準体長（SL），採集年月日，採集地先名，採集地

点名と括弧内にその第 1 次地域区画メッシュコード（環境庁自然保護局計画課自然環境室，1997），採集方法，採集者名の順とした。

なお，本稿で使用した種の標準和名と学名は，タメトモハゼ属については瀬能ほか（2004），その他の種については中坊編（2000）に従った。

### 調査標本

タメトモハゼ *Ophieleotris* sp. A

SPMN-h-700021(図 3)，1 個体，全長 29.0mmTL，体長 24.0mmSL，2010 年 9 月 7 日，静岡県沼津市東間門，新中川新中川橋下流（5238-5617），タモ網，北原佳郎。

背鰭 6 棘-1 棘 8 軟条，臀鰭 1 棘 9 軟条，胸鰭 15 軟条，腹鰭 1 棘 5 軟条，縦列鱗数 30，横列鱗数 10，背鰭前方鱗数 13。

体は円筒状で，肛門より後方は側扁する。腹鰭は癒合せず，左右一対ある。眼の後方から鰓蓋に向かって斜め下後方にのびる 3 本の赤褐色縦帯がある。鰓蓋後方から尾鰭基底部の体側中央には 8 個の赤褐色斑紋が縦列する。頭部感覚管開孔は，前鰓蓋管 N'，O' がある。同属のゴシキタメトモハゼ *O.* sp. 1 の特徴である体腹側の黒褐色縦線，臀鰭の黄色縦帯，眼の上縁の 2-3 列の小鱗（鈴木ほか，2006）はみられない。以上のように，調査標本は明仁ほか



図2 採集場所の様子



図3 タメトモハゼ *Ophieleotris* sp. A SPMN-h-700021 (全長 29.0mmTL, 体長 24.0mmSL) 左:生体 右:標本

(2000), 岩田 (2001), 瀬能ほか (2004) のタメトモハゼの特徴と概ね一致した。また、タメトモハゼの成魚は岩田 (2001) と瀬能ほか (2004) では全長 25 ~ 35cm, 明仁ほか (2000) では体長 14 ~ 20cm とされることから、採集された個体は未成魚と判断された。

備考: 採集時には同所でイセゴイ *Megalops cyprinoides* (Broussonet) (SPMN-h-700020: 1 個体, 全長 35.0mm, 体長 28.2mm), シマイサキ *Rhynchopelates oxyrhynchus* (Temminck and Schlegel), ヌマチチブ *Tridentiger brevispinis* Katsuyama, Arai and Nakamura が採集された。

## 考 察

本種は、種子島より北では確認されておらず、本報告における確認が静岡県初確認および分布の北限および東限にあたると思われる。

静岡県沿岸は黒潮の影響を強く受けているため、南方の生息域から海域を通して分散してきたと考えられるタニヨウジ *Microphis (Lophocampus) retzii* (Bleeker) (加藤, 2010), タテガミハゼ *Oxyurichthys microlepis* (Bleeker) (Takeuchi et al., 2011), ヒトミハゼ *Pasammogobius biocellatus* (Valenciennes) (荒尾ほか, 2008; 北原ほか, 2010), コンジキハゼ *Glossogobius aureus* Akihito and Meguro (石田ほか, 1998), ミナミヒメハゼ *Favonigobius reichei* (Bleeker) (北原, 2008), クチサケハゼ *Oligolepis stomias* (Smith) (北原, 2008; 武内ほか, 2010) などの南方系魚類が多数確認されている。それらのほとんどは、仔魚期に黒潮により運ばれるだけで、再生産が行われない無効分散であると考えられている。今回の確認事例は、既知の分布域が種子島以南であること、採集個体が未

成魚 1 個体と少ないことから、ほかの南方系魚類と同様、黒潮によって静岡県まで分散し、新中川に分布していたものと考えられた。

2007 ~ 2009 年に琉球列島で実施された魚類調査では、過去 10 年間に分布を北上させている種が複数確認されたほか、本種の確認個体数が増加している傾向がみられているため (立原ほか, 2010), 今後も種子島以北で黒潮の影響を受ける地域において本種の確認事例が増える可能性が考えられる。

## 謝 辞

本稿をまとめるにあたり、永田伸也氏 (静岡県沼津土木事務所) には、本稿の公表について快諾をいただいた。板井隆彦氏 (NPO 法人静岡県自然史博物館ネットワーク) には標本の登録および保管をしていただいたほか、本稿の執筆を勧めていただいた。

鈴木寿之氏 (兵庫県立川西緑台高校) には形態についての情報、瀬能 宏氏 (神奈川県立生命の星・地球博物館) には本稿執筆に必要な資料の提供をしていただいた。また、2 名の査読者には、原稿改訂に際しご意見をいただいた。これらの方々に厚く御礼申し上げる。

## 引用文献

- 荒尾一樹・大和 剛・石田 淳 (2008) 静岡県の河口域で採集された魚類。豊橋自然史博研報, 18 号, p. 29-32.
- 明仁親王 (1985) ハゼ亜目. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫編: 日本産魚類大図鑑, 東海大学出版会, 東京, p. 228-229.
- 明仁親王・目黒勝介 (1974) ホシマダラハゼ (新称) *Ophiocara porocephala* とタメトモハゼ *Ophieleotris aporos* について. 魚類学雑誌, 21 卷

- (2), p. 15-21.
- 明 仁・坂本勝一・池田祐二・岩田明久 (2000) ハゼ亜目. 中坊徹次編: 日本産 魚類検索 全種の同定 第二版, 東海大学出版会, 東京, p. 1139-1310.
- 石田 淳・鈴木寿之・玉田一晃 (1998) 静岡県および和歌山県で採集されたコンジキハゼ. I. O. P. Diving news, 9 巻 (9), p. 2-3.
- 岩田明久 (2001) タメトモハゼ. 川那部浩哉・水野信彦・細谷和海編: 日本の淡水魚 改定版, 山と溪谷社, 東京, p. 556.
- 環境庁自然保護局計画課自然環境室 (1997) 都道府県別メッシュマップー 自然環境保全基礎調査用 (全 53 巻)ー 22 静岡県. 環境庁自然保護計画課自然環境室, 東京, p. 115+IV.
- 環境省自然環境局野生生物課 (2007) 哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物 I 及び II のレッドリストの見直しについて, <http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=8648>.
- 加藤健一 (2010) 静岡県で採集されたタニヨウジ. 神奈川自然誌資料, 31 号, p. 69-71.
- 北原佳郎 (2008) 静岡県伊豆地域初記録の魚類. 南紀生物, 50 巻 (1), p. 85-90.
- 北原佳郎・加藤健一・酒井孝明・藤田敏也 (2010) 静岡県伊豆半島青野川で採集されたヒトミハゼ. 兵庫陸水生物, 61・62 号, p. 177-181.
- 黒岩 恒 (1927) 琉球島弧に於ける淡水魚類採集概報. 動物学雑誌, 39 巻, p. 355-338.
- 中坊徹次編 (2000) 日本産魚類検索 全種の同定 第二版. 東海大学出版会, 東京, 1748 p.
- 瀬能 宏・鈴木寿之・渋川浩一・矢野維幾 (2004) 日本のハゼ. 平凡社, 東京, 534 p.
- 静岡県交通基盤部河川砂防管理課 (2010) 静岡県河川指定調書 平成 22 年 4 月 30 日現在. 静岡県交通基盤部河川砂防管理課, 静岡, 145 p.
- 鈴木寿之 (2003) タメトモハゼ. 環境省自然環境局野生生物課編: 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物ー レッドデータブックー 4 汽水・淡水魚類, 自然環境研究センター, 東京, p. 120-121.
- 鈴木寿之・坂本勝一・瀬能 宏 (2006) 絶滅の危機に瀕するハゼ亜目魚類 2 種に対する新標準和名の提唱. 魚類学雑誌, 53 巻 (2), p. 198-200.
- 立原一憲 (2005) タメトモハゼ. 沖縄県文化環境部自然保護課編: 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 (動物編) レッドデータおきなわ, 沖縄県文化環境部自然保護課, 沖縄, p. 167-168.
- 立原一憲・前田 健・近藤 正 (2010) 黒潮に乗って分散する両側回遊魚の生活史戦略と地球温暖化に伴う分布の北上. 科学研究費補助金研究成果報告書 基盤研究 (C) 課題番号 19580214, <http://ir.lib.u-ryukyu.ac.jp/handle/123456789/17810>.
- 武内啓明・玉井隆章・北野 忠 (2010) 静岡県で採集されたノボリハゼ属およびサルハゼ属魚類. 南紀生物, 52 巻 (2), p. 105-108.
- Takeuchi, H., T. Kitano and K. Hosoya (2011) Rediscovery of the maned goby. *Oxyurichthys microlepis* (Teleostei, Gobiidae) in Japan. Biogeography, v. 13, p. 73-77.
- 米沢俊彦 (2003) タメトモハゼ. 鹿児島県環境生活部環境保護課編: 鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物種 動物編ー 鹿児島県レッドデータブックー, トップコピー, 鹿児島, p. 127.